



二輪車安全運転 全国大会 2019



2019年〔雨天決行〕

8/3 土 **4** 日

場 所 **鈴鹿サーキット**
交通教育センター

競技クラス 高校生等クラス(原付一種) 女性クラス(原付二種)
普通二輪クラス(普通二輪) 大型二輪クラス(大型二輪)

出場資格：各都道府県の交通安全協会等が開催する大会の成績優秀者で、大会会長の推薦がある方。(各都道府県各競技クラス1名)

詳しい情報はこちら

<https://www.jmps.or.jp/safety/contest/>

主 催 一般社団法人日本二輪車普及安全協会
後 援 警察庁・内閣府・文部科学省・一般財団法人全日本交通安全協会
一般社団法人日本自動車工業会・一般社団法人全国軽自動車協会連合会
一般社団法人全日本指定自動車教習所協会連合会

協 力 三重県警察・一般財団法人三重県交通安全協会
協 賛 一般社団法人日本自動車整備振興会連合会
一般財団法人日本モーターサイクルスポーツ協会
一般財団法人日本交通安全教育普及協会



二輪車安全運転全国大会2019開催にあたり

挨拶

一般社団法人 日本二輪車普及安全協会
会 長 伊 東 孝 紳



令和の新時代を迎えたこの年に「二輪車安全運転全国大会2019」を開催できますことは誠に喜ばしいことでありますとともに、この大会が担う社会的意義の重大性に身が引き締まる思いであります。

本大会を開催するにあたり、警察庁はじめ内閣府、文部科学省、全日本交通安全協会、日本自動車工業会、全国軽自動車協会連合会及び全日本指定自動車教習所協会連合会のご後援、三重県警察及び三重県交通安全協会のご協力、日本自動車整備振興会連合会、日本モーターサイクルスポーツ協会及び日本交通安全教育普及協会のご協賛並びに二輪車の各銘柄社のご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

本大会は、平成29年の50回大会まで半世紀にわたり開催されてきました全日本交通安全協会・二輪車安全運転推進委員会主催の「二輪車安全運転全国大会」の伝統と実績を引継ぎ、大会趣旨も同大会同様、二輪車運転者の安全運転技能と交通マナーの向上を図ることにより、交通事故を防止するとともに二輪車の普及と安全利用を促進するものとしております。

選手の皆様には、この大会趣旨に則り、これまで培ってこられた安全運転技能を存分に発揮し、熱戦を繰り広げていただくことを大いに期待しております。また、監督、コーチなど選手を支えていただいた皆様には、改めて感謝申し上げる次第です。

本年の大会参加は、34都道府県ですが、これまでの全国大会同様に47都道府県全てが参加し、全国の二輪車の安全運転技能水準の向上が図られることを期待しているところであります。

結びに、今後も二輪車の交通事故が一件でも減少するよう当協会も積極的な活動を推進してまいる所存でありますので、関係機関・団体の皆様には引き続きご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

二輪車安全運転全国大会2019開催にあたり

祝 辞

警察庁交通局長
北 村 博 文



昭和43年以降、平成29年度まで半世紀にわたり二輪車安全運転全国大会が毎年開催されてきました。諸事情から平成30年は、中止となりましたが、令和時代となり、今般、その伝統を受け継ぐ形で、新たに日本二輪車普及安全協会の主催により「二輪車安全運転全国大会2019」として、開催されることとなりました。

本大会が、関係者の皆様のご尽力と、多くの選手の御参加により盛大に開催されますことを、心よりお祝い申し上げます。

さて、平成30年中の交通事故情勢につきましては、発生件数及び負傷者数は14年連続で減少し、死者数は3,532人で昭和23年以降の統計で最少となりました。

しかしながら、昨年の自動二輪車乗車中の死者数は401人と、前年と比較して47人減少したものの、原付乗車中の死者数は212人と前年比28人の増加となっており、依然として事故情勢は厳しい状況にあります。

このような中、高校生をはじめ様々な年齢の参加者が各種競技を通じ、二輪車安全運転技能と交通マナーの向上を図る本大会は、二輪車が関係する交通事故防止に大きく寄与するものと考えております。警察といたしましては、政府が目標とする「世界一安全な道路交通」の実現に向け、関係機関・団体等と連携し、二輪車の交通事故防止を含めた総合的な交通事故抑止対策を一層推進していくこととしております。どうか、皆様方には、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本大会の開催にご尽力いただいた関係者の皆様に謝意を表しますとともに、関係者及び参加者の皆様の益々のご健勝ご活躍を祈念申し上げます。

二輪車安全運転全国大会2019

概略図 8月3日～4日

三重県立鈴鹿青少年センター (選手・監督等宿泊)



大会日程

第1日(8月3日)

受	付	10:30～11:30	鈴鹿サーキット
開	会	12:00～12:30	交通教育センター
審判・選手ミーティング		12:30～13:00	
競技説明・試走		13:30～	
競	技	～16:00	
高校生等クラス		Aブロック→Bブロック	
女性クラス		待機→Aブロック	
普通二輪クラス		Cブロック→待機	
大型二輪クラス		Bブロック→Cブロック	
夕食パーティー		18:00～19:00	ホテルグリーンパーク鈴鹿 2階「グリーンホール」

第2日(8月4日)

試	走	8:00～	鈴鹿サーキット
競	技	～11:00	交通教育センター
高校生等クラス		Cブロック→待機	
女性クラス		Bブロック→Cブロック	
普通二輪クラス		Aブロック→Bブロック	
大型二輪クラス		待機→Aブロック	
表彰式		13:30～14:10	ホテルグリーンパーク鈴鹿
解散		14:10	2階「グリーンホール」

大会開催の趣旨・組織

趣 旨

二輪車運転者の安全運転技能と交通マナーの向上を図ることにより、交通事故を防止するとともに、二輪車の普及、安全利用を促進するものです。

組 織

大会会長	日本二普協会長 伊東孝紳	・団体を略称にて表記させていただいております。 ・敬称を省略させていただいております。			
大会副会長	全安協理事長 野田 健	自工会二輪車 特別委員会委員長 日高祥博	全軽自協会長 堀井 仁		
大会参与	警察庁交通企画課長 太刀川浩一	警察庁運転免許課長 早川智之	三重県警察本部長 難波健太	二推委員長 全安協専務理事 大山憲司	日本二普協専務理 林田武人
	自工会常務理事 和辻健二	全軽自協二輪車 委員会委員長 赤坂正人	全指連専務理事 横山雅之	三重安協専務理事 田中健一	ホンダ安全運転普及本部 本部長 竹内弘平
	ヤマハ安全普及推進本部 本部長 石井謙司	スズキ安全運転推進本部 本部長 濱本英信	カワサキ安全運転推進本部 本部長 寺西 猛	モビリティランド 代表取締役社長 田中 薫	ホンダモーターサイクルジャパン 代表取締役社長 加藤千明
運営委員会委員長	日本二普協常務理事 太田昭雄				
運営副委員長	自工会交通統括部長 小竹 忠	日本二普協安全本部長 藤井龍光			
事務局長	日本二普協安全普及部長 作田裕樹				
運営委員	自工会交通統括部 参事 副島正良	全軽自協 二輪事業担当部長 原 淳一郎	ホンダ安全運転普及本部 事務局長 中嶋英彦	ヤマハ安全普及推進本部 副本部長 宮本義信	スズキ安全運転推進本部 副本部長 塚田 潤
	カワサキ安全運転推進本部 本部長 古橋賢一	交通教育センター 所長 平井 真	日本二普協 G防推進部長 青山孝博		
審査委員会 委員長(兼)	日本二普協常務理事 太田昭雄				
委 員	三重県警察交通部長 伊藤正孝	運転免許センター長 米倉嗣人			
審判長	二推専門員 飯田 剛				
副審判長	運転免許センター試験室長 中村 淳	二推専門員 大島 実			
審判参与	二推専門員 三矢謙三	二推専門員 石井隆幸	二推専門員 木内浩幸		

大会開催の趣旨・組織

審判員

(三重県警察運転免許センター試験官)

田上和重	堀口正人	河瀬亘	郡山孝道
戸田嘉章	高橋真史	藪谷基子	

(二輪車安全運転推進委員会特別指導員)

岸本裕二	大束晴彦	片野直樹	殿村満雄	水谷増士
田村晋也	横尾聡	海野光司	西森理恵	佐藤克哉
猪島克	関雅文	安藤達哉	西條昌宏	浜崎俊広
田村雅幸	村上昭裕	杉本龍一	武智修治	中根巳代志
西村徹哉	水野晴美	田中辰明	山副隆司	林暁彦
阿部英典	尾藤勝義	宮下祐一	駒井和幸	吉村泰彦
茅中良久				

メカニック

山口法久	仁木康信	守雅也	田中良和
------	------	-----	------

出場資格・競技クラスと使用車両

出場資格

選手の出場資格は、次の条件に該当する方とします。

1. 競技で使用する車両の運転資格を有する方
2. 都道府県大会の成績優秀者で、当該都道府県大会会長の推薦が有る方
3. 高校生等クラスは、高等学校、中等教育学校（後期課程に限る。）、高等専門学校、専修学校、各種学校在学者又は卒業者並びにその他の働いている若者で本大会初日において20歳未満の方
4. 女性クラスについては、2019年以降の大会出場回数が3回を超えない方
5. 普通二輪クラス及び大型二輪クラスについては、2019年以降の大会において両クラスを通じて出場回数が3回を超えない方

ただし、次に該当する方は除きます

- ① 二輪車安全運転推進委員会の特別指導員及び指導員
- ② 警察官
- ③ 自動車教習所の指導員、メーカーの認定した指導員、テストドライバー及びこれに準ずる方
- ④ 過去3年以内に運転免許の取消し又は停止の処分(拒否、保留を含む)を受けたことのある方、又は過去3年以内に運転免許の拒否、保留の処分に該当する違反行為をした方
- ⑤ 2019年以降の大会において個人優勝したことのある方（女性クラス及び高校生等クラスの優勝者が普通二輪クラス及び大型二輪クラスに出場する場合を除く。）
- ⑥ トライアルライセンス、モトクロスライセンス、国際A級、国際B級又は国内A級取得者並びにロードライセンス国際級取得者

競技のクラスと使用車両

- | | |
|------------------------|---------------------|
| 1. 高校生等クラス
(ゼッケン青色) | 原付一種（ヤマハ車 ジョグ） |
| 2. 女性クラス
(ゼッケン赤色) | 原付二種（スズキ車 スウィッシュ） |
| 3. 普通二輪クラス
(ゼッケン黄色) | 普通二輪（カワサキ車 Z400） |
| 4. 大型二輪クラス
(ゼッケン緑色) | 大型二輪（ホンダ車 CB1100RS） |

競技のねらい

安全で適正な運転が実践でき、かつ、他の模範となるライダーの育成を目的に、安全運転技能を「法規履行走行」および「技能走行」の競技形式で総合的に審査を行います。ひいてはグッドライダーの育成に寄与するものです。

1 法規履行走行 ～ルールやマナーが実践できるライダーの育成～

交通ルールやマナーを単に知識として知るだけでなく、実際の道路交通の場において交通法規に従った運転を確実に実践できることが大切です。ここではその能力を身に付けるライダーの育成を目的とします。

2 技能走行 ～安全運転の模範となる運転技能を備えたライダーの育成～

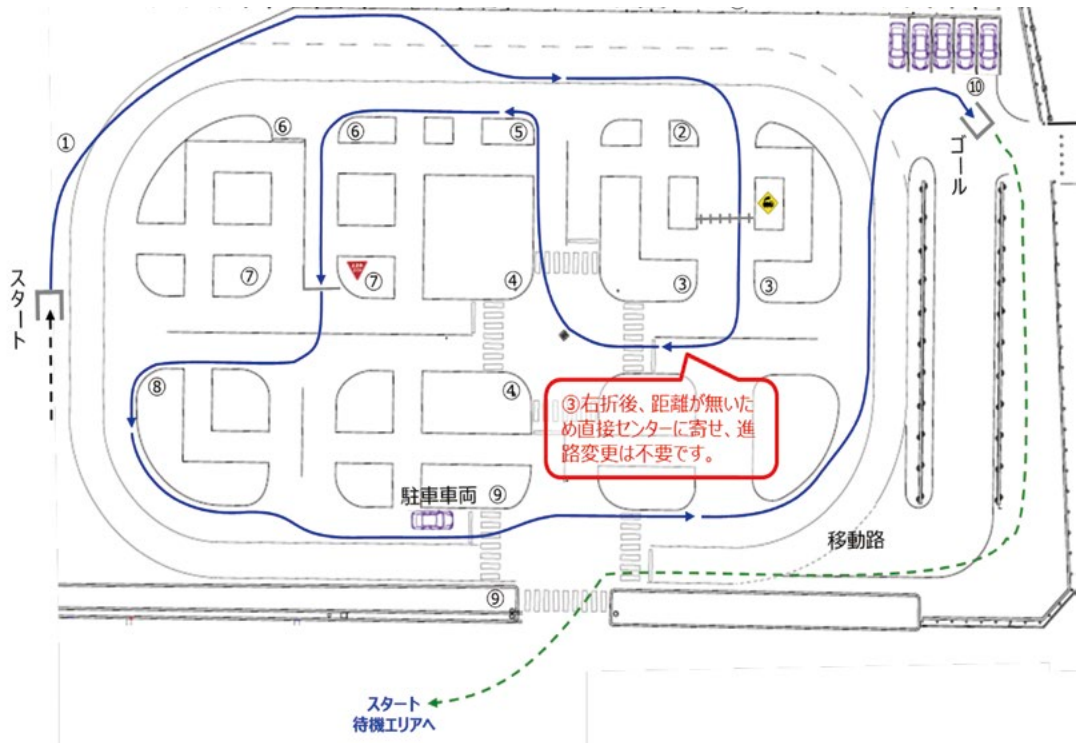
二輪車を安全かつ自在に操縦するには、「走る」「曲がる」「止まる」の各技能を高め、その高めた技能を余裕ある運転に繋げることが大切です。

ここでは事故や転倒の防止を図るとともに、周囲の交通に配慮できるライダーの育成を目的とします。

競技コース図

◎法規履行走行コース図

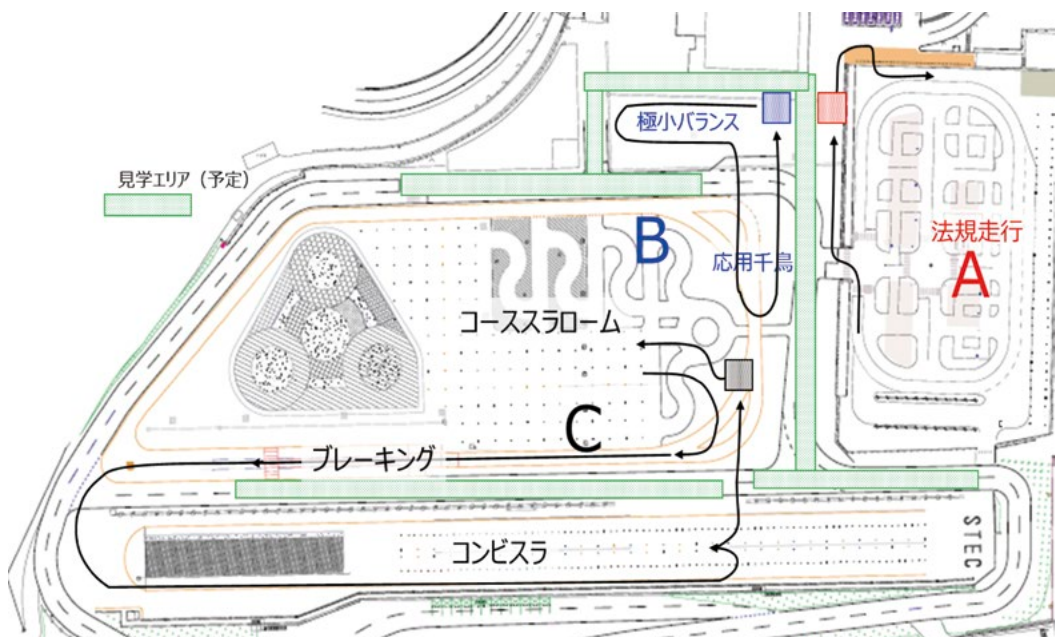
Aブロック…法規履行走行



◎技能走行コース図

Bブロック…極小バランス→応用千鳥

Cブロック…コーススラローム→ブレーキング→コンビスラ



競技方法

1. 競技内容

(1) 法規履行走行

◎法規履行コースで、法規の履行状況を採点します。

(2) 技能走行

◎技能コースに設けた5課題について採点します。

◎1課題、1トライ制とします。

※選手の過失による走行不能（車両故障、傷病）、指示違反及び課題不履行があった場合には、当該課題は失格とします。

※天候等の状況により競技内容を変更することがあります。

2. 競技の進行

法規履行走行及び、技能走行の5課題をA～Cの3ブロックに分けて実施することとし、各課題の実施順序は次表記載順とします。

ブロック	課題及び実施順序
Aブロック	法規履行走行
Bブロック	極小バランス ⇒ 応用千鳥
Cブロック	コーススラローム ⇒ ブレーキング ⇒ コンビスラ

3. 配 点

法規履行走行持ち点	500点（最大減点500点）
技能履行走行持ち点	500点（1課題100点×5課題）
合 計	1,000点

競技方法

4. 成績順位

各選手の持ち点1,000点から、採点基準により減点し、総点数の多い者を上位とします。

5. 各ブロックのスタート、ゴール時の留意点

(1) スタートの準備

各競技を開始するにあたり、競技を円滑に進行するため、規律と節度ある行動を心掛け、服装など装備の確認、車両の点検などを確実に行ってください。

(2) スタートの手順

- 配車場所で競技車両を受領。
- 車両の点検を行う。
- ゼッケン番号順に整列。
- 審判員の指示に従い順次スタート。

(3) ゴールの手順

停止位置において正しく停止する。その後、審判員の指示に従い移動してください。

6. その他

車両不具合があった場合は速やかに審判員に報告してください。また転倒があった場合、車両返却時に審判員または配車係員に転倒した旨を必ず報告の上、返却してください。

共通の採点項目

(1) 転 倒（立ち転け含む）

発進枠に入り停止枠を出るまでに転倒があった場合、当該競技を最大減点とします。

(2) 指定違反

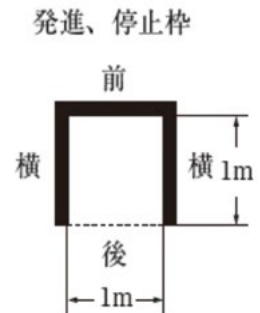
安全運転大会の選手として相応しくないと2名以上の審判員が認めた場合並びに、審判員の指示に従わない場合、ブレーキングにおいては、P17<その他>①の行為があった場合、当該競技を最大減点とします。

(3) 発進枠側線踏み

発進時に発進枠の側線を踏んだ（前輪又は後輪の接地面）場合、減点50とします。

(4) 停止枠外停止

前輪の先端が停止枠を越えた、車輪の接地面が側線を踏んだ、前輪の先端が停止枠に入っていない場合、減点50とします。



法規履行走行の採点基準

法規履行走行が行われるコースで、法規履行の能力、とりわけ一時停止、進路変更、合図、右左折等を採点します。

〈採点基準〉

（最大減点500点）

減点500	減点100	減点50	減点30	減点10
転 倒 指 示 違 反	脱 輪 一 時 不 停 止 踏 切 不 停 止 右 側 通 行 信 号 無 視 進 行 妨 害 歩 行 者 保 護 (不 停 止)	安 全 不 確 認 交 差 点 変 更 不 適 優 先 判 断 不 適 徐 行 不 履 行 側 方 間 隔 不 適 右 足 さ さ え コ ー ス 誤 り 発 進 枠 側 線 踏 み 停 止 枠 外 停 止	合 図 し な い 右 左 折 方 法 不 適 ア ク セ ル む ら 急 ハ ン ド ル ふ ら つ き (バ ラ ン ス) 駐 停 車 方 法 不 適	合 図 (戻 し ・ 不 適) 安 全 装 置 (ミ ラ ー ・ ス タ ン ド) 乗 車 姿 勢 不 適 エ ン ス ト 発 進 手 間 取 り 速 度 維 持 不 適 停 止 位 置 不 適

（注）ここに定める採点基準は、競技会の主旨と運営に沿って作成したもので、運転免許技能試験とは異なります。

技能走行の採点基準

	減点100	減点50	減点30	減点10	減点1
技能走行共通	転倒 指示違反	安全不確認 発進枠側線踏み 停止枠外停止	発進手間取り 両足ばなれ 足つき(1回)	片足ばなれ 右足つき エンスト(1回)	

極小 バランス	コースアウト	足ささえ (1回につき)	パイロン接触(1本)		基準タイム不足 (0.1秒毎に)
応用千鳥	コースアウト	足ささえ (1回につき)	車体接地(1回) パイロン接触(1本)		
コース スラローム	コースアウト (両輪)	コースアウト (片輪1回)	運転姿勢 車体接地(1回) 前輪ロック(前輪) パイロン接触(1本)		基準タイム超 (0.1秒毎に)
ブレーキング	コースアウト (コース幅 オーバー) 指定速度不足 (6.0km/h超)	指定速度不足 (3.0km/h超～ 6.0km/h以下) 車輪ロック (2m以上)	運転姿勢 指定速度不足 (3.0km/h以下)	停止基準距離 オーバー: 0.5m毎に ※エンストは 制動区間除く	
コンビスラ	コースアウト (両輪)	コースアウト (片輪1回)	運転姿勢 車体接地(1回) 車輪ロック(前輪) パイロン接触(1本)		基準タイム超 (0.1秒毎に)

【技能走行共通項目】

安全不確認……………発進位置からの発進時及び、停止位置からの再発進時に右後方を目視で確認しない。(コース内は除く)

発進手間取り……………審判のスタート指示に対して速やかに(3秒程度)スタートしない。

両足ばなれ……………走行中両足がステップから離れた。

足つき……………左右いずれかの足をついた回数をカウント。

片足ばなれ……………走行中、左右いずれかの足がステップから離れた。
(ただし、停止位置から2m以内の左足ばなれは除く)

右足つき……………スタート時/ゴール時に右足又は両足着地した。

エンスト……………スタートからゴールまでの間にエンストした回数をカウント。
(ブレーキングの制動区間除く)

技能走行の種目

1. 極小バランス

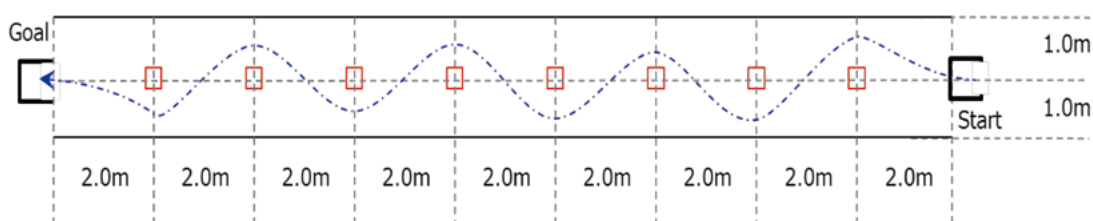
(最大減点100点)

〈ねらい〉 内輪差などを考慮した確かな車両誘導技術で走行できる、低速走行時の「バランス」運転技能向上をねらいに設けられた課題です。

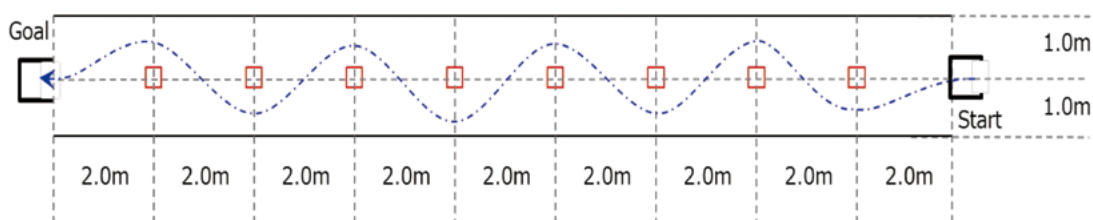
〈走り方〉 ①発進位置において正しい姿勢で停止し、審判員の合図で後方の安全を確認し、発進する。
②課題の入口から出口までの間に設けられたパイロン、マーカー、側線などに接触しないように、センターのパイロンを左右に縫って走行する。
③停止位置で停止し、審判員のチェックを受け指示に従う。

〈その他〉 ①基準タイム：30秒以上（1/100秒以下切り捨て）
②車両が停止または、後退した状態での足つきは、「足ささえ」とする。

〈コース図〉 ■走行方法例1：右側進入



■走行方法例2：左側進入



※センターのパイロン：未来工業 TSカップリング（ストレートタイプ）PVF-36J（全長92mm、直径50mm）を使用。

※センターパイロン転がり防止のため、因幡電機産業エアコン配管副部材ウォールキャップ穴ふたWM-60-Iを上記のTSカップリングの下にとり付けます。

<http://www.inaba-denko.com/ja/data/series/info/id/006-00009/>

技能走行の種目

2. 応用千鳥

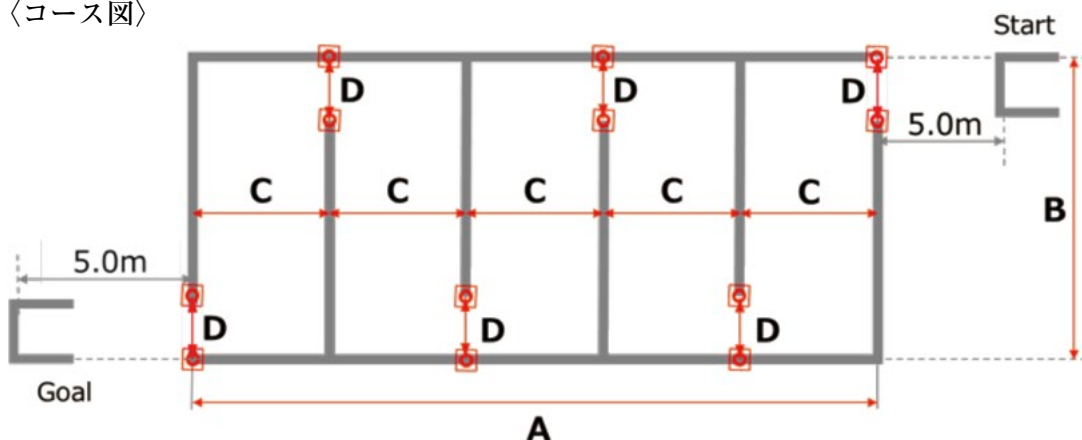
(最大減点100点)

〈ねらい〉 随所にゲートが設けられ車体の傾斜角が制限された狭小コースを安全かつ的確に通過できる、「バランス」運転技能向上をねらいに設けられた課題です。

- 〈走り方〉
- ①発進位置において正しい姿勢で停止し、審判員の合図で後方の安全を確認し、発進する。
 - ②課題の入口から出口までの間に設けられたパイロン、マーカーなどに接触しないように走行する。
 - ③停止位置で停止し、審判員のチェックを受け指示に従う。

- 〈その他〉
- ①基準タイム：設定なし
 - ②車両が停止または、後退した状態での足つきは、「足ささえ」とする。
 - ③コース幅、ゲート幅は指定寸法内で変化する。

〈コース図〉



■ 普通/大型二輪

A: 15.0m

B: 10.0m

C: 3.0m

D: 1.1m(大型二輪)

1.0m(普通二輪)

■ 原付一種/原付二種

A: 10.0m

B: 7.0m

C: 2.0m

D: 0.9m(大型二輪)

1.2m(普通二輪)

技能走行の種目

3. コーススラローム

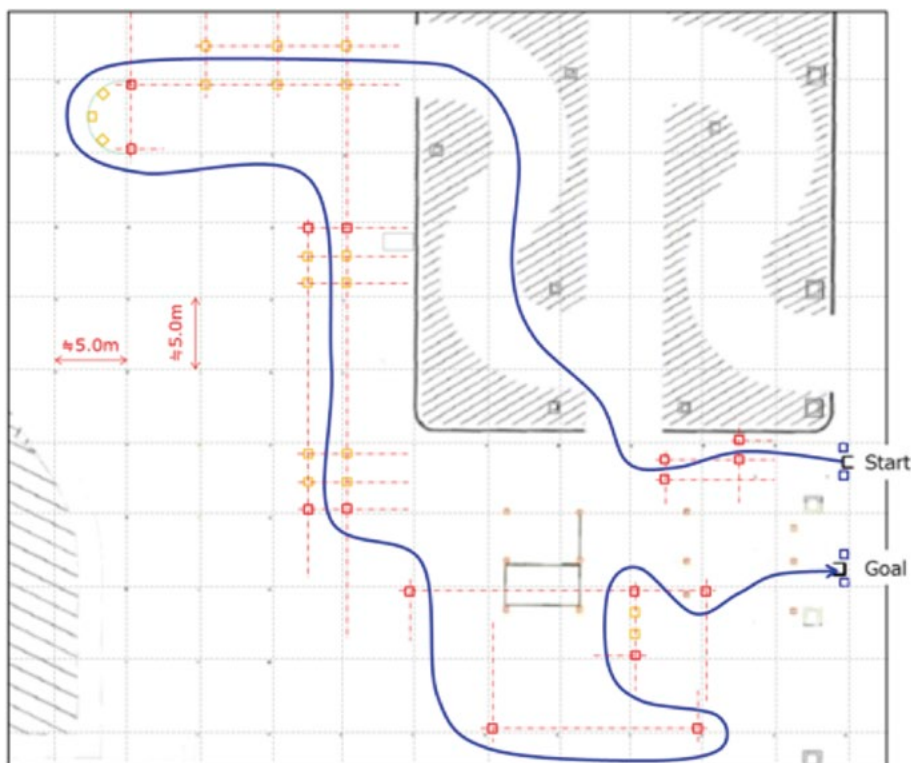
(最大減点100点)

〈ねらい〉 左右に連続する大小のカーブを正しい運転姿勢で安全かつ円滑に操縦できる、「走る」「曲がる」「止まる」の総合的な運転技能向上をねらいに設けられた課題です。

- 〈走り方〉
- ①発進位置において正しい姿勢で停止し、審判員の合図で後方の安全を確認し、発進する。
 - ②指定コースを的確に判断し、アクセル、ブレーキ、クラッチ等が必要に応じてコントロールしながら走行する。
 - ③進路は変化に富んでいるので、視線はできる限り前方に向け、常に先を読みながらハンドルを操作する。
 - ④停止位置で停止し、審判員のチェックを受け指示に従う。

〈その他〉 ①基準タイム：各クラス毎に減点がなく且つ最速のタイムを基準タイムとする。(1/100秒以下切り捨て)

〈コース図(イメージ)〉



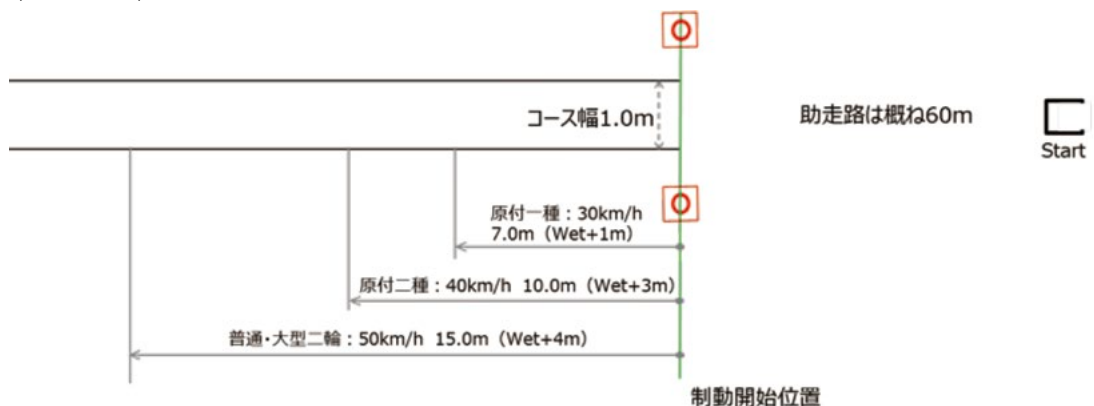
技能走行の種目

4. ブレーキング（制動）

（最大減点100点）

- 〈ねらい〉 指定された速度・位置から制動を開始し、停止基準距離内で安定して停止することができる、「止まる」運転技能向上をねらいに設けられた課題です。
- 〈走り方〉
- ①発進位置において正しい姿勢で停止し、審判員の合図で後方の安全を確認し、発進する。
 - ②スタートギアは1速とする。
 - ③助走路の前半で素早く変速加速し、後半で指示速度に合わせ車を安定させる。なお、ギアは3速以上とする。
 - ④制動開始位置から制動を開始する。
 - ⑤車輪をロックさせないで、停止基準距離内で停止する。
 - ⑥車を完全に停止させ、左足で着地する。
 - ⑦停止位置で審判員のチェックを受け、指示に従う。
- 〈その他〉
- ①ブレーキ開始が明らかに早い、助走路でレバーに指がかかっている、また、ギアが2速以下で進入した場合は指示違反とする。
 - ②距離の測定は前輪の先端で計測する。
(0.5m単位で計測し切上げとする：例10.1m⇒10.5m 9.8m⇒10.0m)
 - ③車輪ロック 2m以上は、後輪ロックのみが対象です。

〈コース図〉



技能走行の種目

5. コンビストラ

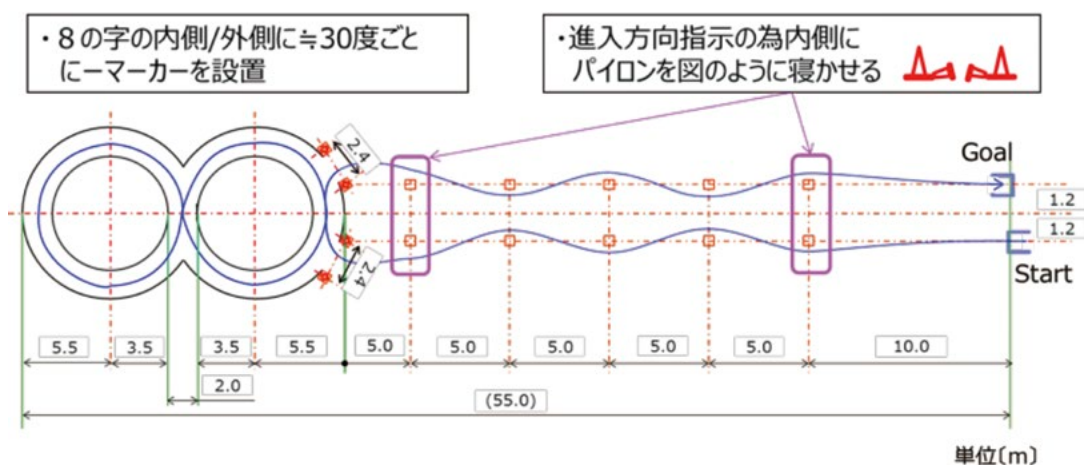
(最大減点100点)

〈ねらい〉 連続する障害物のコースを正しい運転姿勢で安全かつ円滑に操縦できる、「曲がる」運転技能向上をねらいに設けられた課題です。

- 〈走り方〉
- ①発進位置において正しい姿勢で停止し、審判員の合図で後方の安全を確認し、審判員に指示された進入路より進む。
 - ②パイロンを通過するときは、接触しない 最小限の傾斜でゆるやか弧をえがき通過する。
 - ③停止位置で停止し、審判員のチェックを受け指示に従う。

〈その他〉 ①基準タイム：各クラス毎に減点がなく且つ最速のタイムを基準タイムとする。(1/100秒以下切り捨て)

〈コース図〉



表彰

表彰は団体賞及び個人賞とし、次により行います。

1. 団体賞

各クラスの得点を集計した総合得点が第1位の都道府県チームに、警察庁長官・日本二輪車普及安全協会会長連名賞を、第2位及び第3位のチームに日本二輪車普及安全協会会長賞を贈ります。

第1位から第3位までのチームに、日本自動車工業会二輪車特別委員会委員長賞を贈ります。

2. 個人賞

各クラスとも入賞は8位までとし、それぞれ以下の賞を贈ります。

各クラス第1位の方に警察庁長官・日本二輪車普及安全協会会長連名賞を、第2位及び第3位の方に日本二輪車普及安全協会会長賞を贈ります。

また、高校生等クラス第1位の方に文部科学大臣賞を贈ります。

各クラス第1位から第3位までの方に、全国軽自動車協会連合会会長賞を贈ります。

各クラス第4位から第8位までの方に、入賞者賞（メダル）を贈ります。

「二輪車安全運転全国大会2019」出場選手・監督名簿

No.	都道府県	ゼッケン番号	監督氏名	高校生等クラス ゼッケン(青色)	女性クラス ゼッケン(赤色)	普通二輪クラス ゼッケン(黄色)	大型二輪クラス ゼッケン(緑色)
1	北海道	1	朝倉宏幸		吉田麻美	西田智尊	津垣正仁
2	青森	2	黒滝永	黒滝輝	工藤未来理	川村昂大	鈴木紀幸
3	岩手	3	白鳥洵	戸田真人		菅原光輝	伊藤裕康
4	宮城	4	佐々木和彦	伊藤愛	佐藤ちひろ	佐藤靖	西山義昭
5	山形	6	安達昭雄	阿部元気	宇野都萌	櫻井幸治	杉山和彦
6	福島	7	佐藤昌則	橋本隆汰	三浦美穂	佐藤優作	佐藤晃彦
7	東京	8	若園徹	高田友恵	須永弘子	保志場裕	戸賀瀬伸之
8	茨城	9	山中進	瀧原和樹	大関淳子	斎藤健太	照沼弘道
9	埼玉	12	田中雅宏	滑雄之介	宮澤純子	皆川優大	園部昌仁
10	千葉	13	又賀泰宏	佐藤賢人	谷内真理	河本一郎	日暮道正
11	神奈川	14	橋本紳二	中村優太	加藤由貴子	藤井峰夫	佐藤正章
12	山梨	16	山口慶一	柏崎正篤	小林孝江	石網拳大	坂巻寛
13	長野	17	内田貴之	金井美来	高主祐子	金井涼	齊藤和徳
14	三重	24	臼井和則	真鍋容子	中根智子	和田悟	真鍋彰夫
15	滋賀	25	樋口稔洋		饗庭麗子	足立成彦	磯部太志
16	京都	26	山川直人	多羅尾重輝	杉山裕佳	鈴木賢一郎	上村武志
17	大阪	27	土橋明	安井舜一	迫彩香	真鍋幸弘	岡本茂
18	兵庫	28	原田圭吾	堀畑竜久	原田さおり	小西恵一	笠波智加夫
19	奈良	29	池尻博彦	南雅志	中原幸子	染矢和政	林晃吉
20	和歌山	30	細井延朗	太田奈津季	井上博美	前田英雄	西岡翼
21	鳥取	31	丁田匠		山田瑞姫	近藤康之	小高拓也
22	島根	32	塩野直史	福島朱音	草瀬悦子	吉川大志	松尾鉄平
23	岡山	33	山崎悟史		山崎知代	光吉政一	窪田豊
24	広島	34	櫻井勝實	中垣彩音	浅尾幸枝	古賀正則	花岡英明
25	山口	35	山下義明	森脇聡真	山崎瑞季	畑中良之	丸山浩典
26	徳島	36	山橋諄亮	新堀智也	森河美法	齋藤敬介	近藤長史
27	愛媛	38	石井恵一郎	田井優希	小笠原由莉	森亮太	武田耕青
28	高知	39	裏正一哉		廣田ゆかり	下元啓資	小田裕朗
29	福岡	40	東野吉泰		林田さおり	石田朋	安川武志
30	佐賀	41	下田勝久		溝口典子	篠崎寛宣	八頭司裕治
31	熊本	43	甲斐哲	藤本絃幹	蓑田美保	梅田幸治	幡淳宣
32	大分	44	古賀和孝	有永遥人	後藤麻衣	財前浩二	三浦勇二
33	宮崎	45	佐藤定光		佐々木りか	大坪秀博	
34	鹿児島	46	肥後良二		松田錦		
			34名	25名	33名	33名	32名

「二輪車安全運転全国大会2019」成績

団 体 成 績

順位	都 道 府 県	順位	都 道 府 県
1		6	
2		7	
3		8	
4		9	
5		10	

個 人 成 績

高校生等クラス

順位	都 道 府 県	選 手 名
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		

女 性 ク ラ ス

順位	都 道 府 県	選 手 名
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		

普通二輪クラス

順位	都 道 府 県	選 手 名
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		

大型二輪クラス

順位	都 道 府 県	選 手 名
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		

MEMO



一般社団法人

日本二輪車普及安全協会